

アーティストの好循環を創り出す～大規模国際共同制作オペラを通じた輸出型プロモーションの試み (実施団体：(公財)東京二期会)

目的・目標

ボーダレスな活動を行い得る国際的アーティストの育成を目的とする。オペラにおけるアーティストの育成は、実際のプロダクションを通してのみ可能であり、これまで培ってきた欧米主要歌劇場とのコネクションを利用し、複数年にわたる国際的協働を通して令和のロールモデル作りを行っていく。

概要

国内外を問わず最低年1本のプロダクションを設定。育成対象となる声楽家と世界的歌手との共演機会の創出、それに伴うワークショップ実施、指導者からの個人稽古など、世界の舞台で活躍するための音楽的な素地を整えるほか、育成対象者スタッフについても、共同制作先である初演地でのアシスタント業務などを通じて、世界のプロダクションが求めるスキルを身につけていく。

3年目までの取組

国内において世界的アーティストと育成対象者との共演機会となるオペラ公演出演及びペーター・コンヴィチューニ氏やロッテ・デ・ベア氏による演出ワークショップ受講、海外での指導者からの音楽個人稽古等、演唱両面を研修。中核クリエイターである宮本亜門氏演出のオペラ作品の海外上演を通し、研修の成果を世界に向けて披露する機会を確保する。



2023年東京二期会オペラ劇場
『午後の曳航』演出：宮本亜門

5年目までの取組

宮本亜門及び育成対象者演出による新制作プロダクションで、オペラ上演を計画。プロダクションは2027年度に海外でのワールドプレミア後、2028年度には東京での凱旋公演を実施。当該プロダクションでは、コンセプト段階から育成対象者が指導者とともに関わることで、数年に亘り作品そのものの深度の追求とともに、それぞれの分野での高いスキルを習得する。



マスタークラスの様子
(講師：指揮者
レオナルド・シーニ)



演出ワークショップの様子
(講師：演出家ロッテ・デ・ベア)

中核となるアドバイザー



- ・宮本亜門
(演出家)
オペラ、ミュージカル、歌舞伎など、ジャンルを問わず演出を手掛ける日本を代表するクリエイターのひとり。複数年にわたるプロジェクトで、この事業をバックアップする。

(分野・ジャンル)

・音楽・オペラ

(渡航先の国・地域)

・欧州歌劇場(2026年度)

(国内外の連携・協力体制)

・オペラ・ヨーロッパ他

成果目標（見込）	目標値
企画段階から海外公演等々に登用される若手クリエイター等の数	14人
国内外の団体・企業等との連携数 (連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	37件
プロジェクトに関わった海外アーティスト・キュレーター等の数	40人
国内外で展開される公演・展示等の数	21回数
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	15,000人

育成対象者：14人

演出家/照明デザイナー/
声楽家/振付家/
指揮者/コーディネーター

弊財団理事長諮問機関たるオペラ企画委員会における選考、指導者による推薦等

【補足資料】

育成対象者の取組例

シャンゼリゼ劇場との共同制作
『コジ・ファン・トゥッテ』への出演：
一條翠葉、河野大樹、宮下嘉彦
スタッフとしての参加：飯野聡ほか



演出家パーター・コンヴィチュニーによる
演出ワークショップ受講：
一條翠葉、河野大樹
通訳兼アシスタント：森川太郎



複数年を通じ、最低年
1本の公演プロダクショ
ンを当事業として実施。
その公演を中心として、
各分野における国内外
での研修の構築。

指導者によるプログラム例

演出家：宮本亜門、ロッテ・デ・ベア、ギー・ヨステ
ン、カローネ・グルーバーによるプロダクションの実施



コレペティトゥア：森内剛による音楽個人稽古
照明デザイナー：喜多村貴による現場での指導

海外歌劇場、海外メディアとの協力体制

協働する海外のオペラカンパニー例：シャンゼリゼ劇場、韓国国立オペラ

海外メディア例：オープンヴェルト、オーパングラス等の雑誌媒体、新聞各紙、オペラベース

東京二期会の所属するオペラ・ヨーロッパ*と協働しての広報、情報共有など

*世界のオペラカンパニーの多くが所属する横断的組織であり、世界43か国、233カンパニーが参加

国内団体との協力体制

ホール例：やまぎん県民ホール、東京文化会館

研修機関：二期会オペラ研修所、国内各音楽大学

国内外広報コンサルティング：ジーン・アンド・フレッド

協賛企業：興和株式会社、ソニーフィナンシャルグループ株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、
ダイドー株式会社、株式会社三井住友銀行、龍角散株式会社